



Report on research

稲作は3年ぶりに 増収増益 酪農・肉用牛も 増収増益

—2015年 農業経営動向分析—

2015年は販売価格の上昇による売上高の増加や燃油価格の下落に伴う費用削減などにより、稲作、北海道畑作、キノコ、酪農、肉用牛肥育などで個人、法人共に増収増益となりました。

の継続により、個人の売上高は前年並みで法人は増収となりました。加えて、燃油価格下落に伴う燃料動力費削減により、個人、法人共に増益となりました。

耕種の所得は部門で格差

二〇一五年の個人経営（耕種部門）の収支状況を経営部門別に見ます。まず、売上高については、果樹を除いた業種で三〇〇〇万円程度となっています（表2）。特に、平均経営規模が大きい畑作（北海道）と露地野菜（北海道）では五〇〇万円を超えています。

次に農家所得は、畑作（北海道）、露地野菜が一〇〇〇万円を超える一方、果樹、茶では五〇〇万円程度にとどまり、業種による差が大きくなっています。

また、売上高に対する借入金残高の比率（売上高借入金残高比率）は、大半の業種で六〇〜九〇%となつていますが、露地野菜（都府県）では四〇%程度と低い値です（図1）。

費用に占める材料費の割合（材料比率）は畑作（北海道）と露地野菜（北海道）が高く、その他の業種はおおむね三〇〜四〇%前後です（図2）。大規模な機械化が可能な畑作（北海道）と露地野菜（北海道）は、稲作同様、労務費割合（労務費率）が

低い一方、施設、機械導入により減価償却費の割合（減価償却費率）は高くなっています。

全ての畜種で材料費率高

同様に、個人経営の畜産部門の収支状況を経営部門別に見ると、都府県の酪農を除く業種で売上高が一億円を超えており、大規模化が進んでいることがうかがえます（表3）。

農家所得は、酪農（都府県）、採卵鶏、ブロイラーで一〇〇〇万円程度、さらに酪農（北海道）、肉用牛肥育、養豚一貫で一五〇〇万円を超えています。所得率は全業種とも五〜一五%であり、耕種に比べて低い水準です（図3）。畜産は単位当たりの利益が少ないため、利益を確保するには相当な数量を販売しなければならず、経営規模拡大の必要性が高い業種と思われれます。

なお、酪農については、設備負担に加え保有家畜（乳牛）の減価償却負担が大きいために、所得率に比べて高くなっている売上高キャッシュフロー比率にあらわれています。

売上高借入金残高比率は、酪農（北海道）、肉用牛肥育（肉用種）、採卵鶏が六〇%程度と高く、ブロイラーでは三〇%未満と低い値です。材料費率は耕種（三〇〜五〇%）に比べて高く、全ての畜種でおおむ

日本公庫では、農業を営むお客さまを対象に、三カ年（二〇一三〜一五年）の決算データを集計して、損益の動向や財務指標などを分析しています。日本公庫ホームページでは、調査結果の詳細や関連図表などが確認いただけます。（<https://www.jfc.go.jp/n/findings/publish.html#info>）

稲作増益は米価上昇が寄与

経営部門別に二〇一四年と一五年の収支を比較しました（表1）。耕種部門では、稲作は一五年産米の収量が前年産と同水準であったものの、米価が上昇したことなどにより、個人、法人共に三年ぶりに増収増益となりました。特に、法人経営

の経常利益は前年に比べ三九・三%増と、大幅に改善しました。畑作（北海道）も、一五年産小麦の作柄が改善したことや大豆の作付面積が拡大したことにより生産量が増加し、個人、法人共に増収増益となりました。

一方で、個人の露地野菜（北海道）は、タマネギの卸売価格の下落などにより減収減益となりました。

畜産部門では、酪農が一五年の乳価引き上げにより、個人、法人共に増収増益となりました。

肉用牛肥育も、全品種とも卸売価格が上昇し、個人、法人共に増収増益となりました。

採卵鶏、ブロイラーは、一四年以降の堅調な需要を背景とした高値

ね六〇%以上となっています(図4)。

また、肉用牛肥育では素畜購入単価上昇を受け、費用に占める素畜費の割合(素畜費率)が高くなっており、特に肉用種で素畜費が飼料費より高くなっています。

一方、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラーでは飼料費の割合(飼料費率)が五五%超と高く、飼料価格が上昇した場合、経営に与える影響が大きくなります。

(情報企画部 高雄和彦)

【集計・分析対象など】

- 集計・分析対象先
公庫取引先六一三先(個人経営 四四七八先、法人経営一六三五先)
- 対象経営部門(農業収入の第一位部門で区分)
耕種八部門:稲作、畑作(北海道)、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、キノコ
畜産五部門:酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー
- 対象決算期
二〇一三年・一四年・一五年
法人は各年一二月〜翌年三月が決算期のもの

【注】

- 文書中の「増益」や「減益」は、個人経営では農家所得(専従者給与控除前・税引前)、法人経営では経常利益が増加したか減少したかで判断している。

表1 経営部門別の収支(2014年と2015年の比較)

(金額単位:百万円)

経営部門	個人経営									法人経営										
	サンプル数	売上高			農家所得 (専従者給与控除前)			サンプル数	売上高			経常利益								
		2014年	2015年	増減率	2014年	2015年	増減率		2014年	2015年	増減率	2014年	2015年	増減率						
耕種	稲作	北海道	62	26.8	30.4	↑↑	13.4%	6.0	8.1	↑↑	35.0%	683	55.8	60.6	↑	8.6%	1.5	7.4	↑↑	393.3%
		都府県	1,284	24.7	27.8	↑↑	12.6%	4.9	7.2	↑↑	46.9%		85.5	96.1	↑↑	12.4%	2.3	9.5	↑↑	313.0%
	畑作(北海道)	26	51.2	64.0	↑↑	25.0%	9.7	16.4	↑↑	69.1%	32	85.5	96.1	↑↑	12.4%	2.3	9.5	↑↑	313.0%	
	果樹	271	16.4	17.2	→	百万円未満	4.9	5.1	→	百万円未満	44	78.2	81.2	→	3.8%	2.6	3.2	→	百万円未満	
	露地野菜	北海道	70	58.7	52.2	↓↓	▲11.1%	16.0	14.0	↓	▲12.5%	57	106.2	118.8	↑↑	11.9%	2.6	7.0	↑↑	169.2%
		都府県	380	33.4	37.5	↑↑	12.3%	8.8	10.7	↑↑	21.6%		131.4	138.4	↑	5.3%	▲0.5	1.5	→	百万円未満
	施設野菜	663	31.4	35.2	↑↑	12.1%	7.7	9.8	↑↑	27.3%	50	131.4	138.4	↑	5.3%	▲0.5	1.5	→	百万円未満	
	施設花き	186	41.1	43.2	↑	5.1%	7.4	8.9	↑↑	20.3%	31	100.8	101.8	→	1.0%	0.0	▲0.4	→	百万円未満	
	茶	124	29.1	28.2	→	百万円未満	4.9	4.6	→	百万円未満	41	110.4	112.6	→	2.0%	▲9.1	▲3.8	↑	赤字幅縮小	
キノコ	28	33.4	36.5	↑	9.3%	5.3	6.9	↑↑	30.2%	32	406.0	437.1	↑	7.7%	25.1	42.8	↑↑	70.5%		
畜産	酪農	北海道	28	93.9	103.1	↑	9.8%	10.7	15.1	↑↑	41.1%	108	207.1	229.5	↑↑	10.8%	8.5	21.9	↑↑	157.6%
		都府県	713	76.3	81.1	↑	6.3%	7.8	10.3	↑↑	32.1%		150	229.1	246.6	↑	7.6%	10.8	18.2	↑↑
	肉用牛肥育	447	134.8	154.3	↑↑	14.5%	8.4	17.5	↑↑	108.3%	107	737.0	853.5	↑↑	15.8%	14.9	68.2	↑↑	357.7%	
	養豚一貫	135	122.1	124.4	→	1.9%	14.3	16.5	↑	15.4%	190	597.3	606.7	→	1.6%	37.8	37.0	→	百万円未満	
	採卵鶏	32	146.8	151.0	→	2.9%	9.5	11.6	↑↑	22.1%	85	1110.8	1179.2	↑	6.2%	14.6	63.6	↑↑	335.6%	
	ブロイラー	29	134.6	137.9	→	2.5%	7.5	9.4	↑↑	25.3%	25	3510.0	3783.5	↑	7.8%	224.0	336.2	↑↑	50.1%	

●増減率・売上高 ↑↑:10%以上増 ↑:5以上~10%未満増 →:±5%未満増減 ↓:5以上~10%未満減 ↓↓:10%以上減
 ・農家所得・経常利益 ↑↑:20%以上増 ↑:10以上~20%未満増 →:±10%未満増減 ↓:10以上~20%未満減 ↓↓:20%以上減

注1:農家所得・経常利益については、増減幅が百万円未満の場合は上記によらず→とした。また、黒字転換の場合は↑↑、赤字幅縮小の場合は↑とした。
 注2:四捨五入の関係上、増減率が一致しない場合がある。

表2 2015年の個人経営の収支状況(耕種部門)

(金額単位:百万円)

属性	稲作		畑作	果樹	露地野菜		施設野菜	施設花き	茶	キノコ
	北海道	都府県	北海道		北海道	都府県				
サンプル数	62	1,284	26	271	70	380	663	186	124	28
経営規模	水稻作付面積 (ha)		経営耕地面積 (ha)	第1位品目作付面積 (ha)			第1位品目栽培面積 (千㎡)	茶園面積 (ha)	-	
	15.8	14.0	44.2	2.6	10.4	4.0	6.0	6.4	5.8	-
売上高 (A)	30.4	27.8	64.0	17.2	52.2	37.5	35.2	43.2	28.2	36.5
費用 (E)	22.9	20.5	46.9	12.2	37.9	26.7	25.2	34.3	23.3	29.3
期首棚卸高	0.7	1.1	7.7	1.6	17.5	0.6	0.2	2.7	0.2	1.0
材料費 (F)	8.6	6.6	22.9	3.6	17.7	10.0	7.4	10.8	7.2	8.9
労務費・人件費 (G)	0.7	1.3	2.4	2.2	2.4	3.3	4.2	5.3	2.1	3.8
燃料動力費 (H)	1.1	1.2	2.0	0.7	1.2	1.0	2.7	4.8	3.1	3.7
賃借料・リース料	2.4	2.1	5.0	0.2	2.4	0.7	0.5	0.5	0.6	0.2
減価償却費 (I)	3.8	4.1	6.4	1.6	4.8	3.0	3.2	3.9	3.7	4.4
その他費用	6.2	5.1	8.1	3.5	9.5	8.4	6.9	8.7	6.4	8.1
期末棚卸高	▲0.7	▲1.1	▲7.7	▲1.4	▲17.9	▲0.6	▲0.2	▲2.6	▲0.2	▲1.0
営業利益	7.4	7.3	17.0	4.9	14.3	10.8	9.9	8.8	4.9	7.1
営業外損益	0.0	0.0	▲0.6	0.1	▲0.2	0.0	0.0	0.0	▲0.2	▲0.2
農家所得(専従者給与控除前) (B)	8.1	7.2	16.4	5.1	14.0	10.7	9.8	8.9	4.6	6.9
減価償却前 (C)	12.0	11.3	22.8	6.7	18.9	13.7	13.1	12.8	8.4	11.3
専従者給与	3.2	2.5	5.4	2.3	6.1	4.9	4.3	4.6	2.8	2.8
借入金残高 (D)	25.0	21.7	47.0	13.6	36.1	14.9	21.9	26.0	23.7	25.4

図2 2015年の個人経営のコスト内訳(耕種部門)

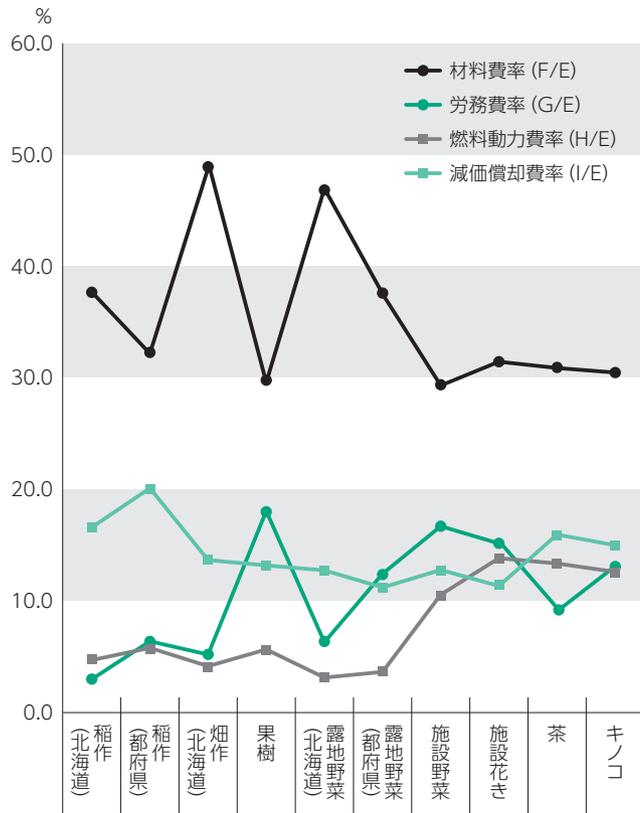


図1 2015年の個人経営の所得率など(耕種部門)

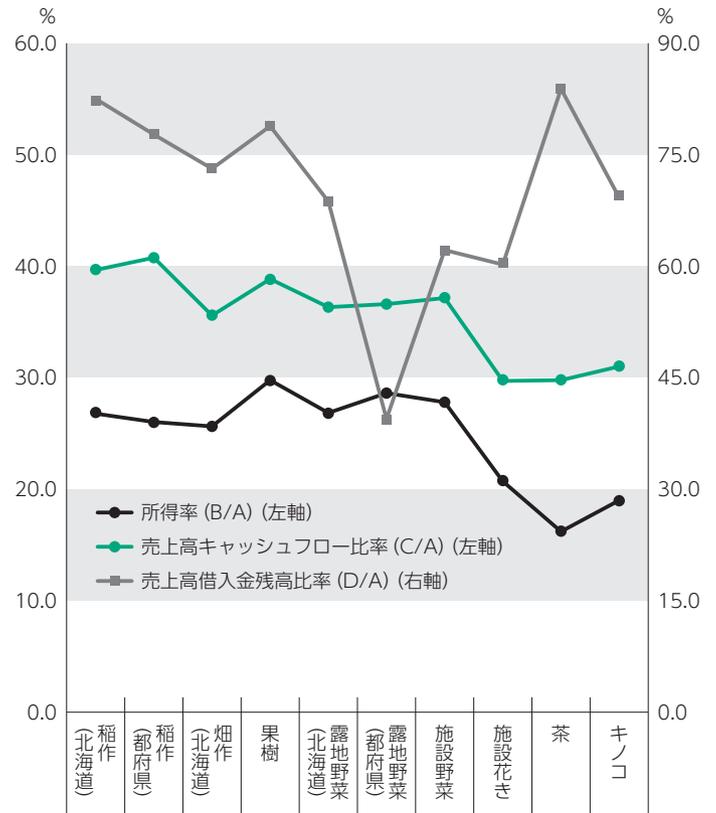


表3 2015年の個人経営の収支状況(畜産部門)

(金額単位:百万円)

属性	酪農		肉用牛肥育			養豚一貫	採卵鶏	ブロイラー
	北海道	都府県	肉用種	交雑種	乳用種			
サンプル数	28	713	361	63	20	135	32	29
経営規模	成牛頭数(頭)		飼養頭数(頭)			繁殖雌豚頭数(頭)	飼養羽数(千羽)	
	116.6	68.6	231.1	397.7	429.4	154.8	42.2	61.3
売上高(A)	103.1	81.1	148.6	183.8	165.4	124.4	151.0	137.9
費用(E)	87.9	70.5	130.9	162.8	143.3	107.7	138.1	128.5
期首棚卸高	3.9	1.2	112.3	139.6	84.6	21.4	4.0	6.1
材料費(F)	51.3	45.1	113.4	144.5	121.4	74.3	103.2	103.3
飼料費(G)	33.9	35.3	39.4	64.9	68.9	59.3	84.6	79.9
素畜費(H)	3.9	1.4	56.5	60.3	45.2	1.9	10.3	15.2
労務費・人件費	2.8	2.1	2.3	3.3	2.5	4.3	7.4	2.0
減価償却費(I)	14.4	10.4	4.6	4.9	4.5	6.8	10.2	4.1
その他費用	19.0	12.7	22.7	22.6	21.4	20.8	18.2	18.6
期末棚卸高	▲3.7	▲1.2	▲124.6	▲152.3	▲91.3	▲20.0	▲5.0	▲5.8
営業利益	15.1	10.6	17.7	20.9	22.0	16.6	12.8	9.4
営業外損益	0.0	▲0.2	▲0.8	▲0.7	▲0.6	▲0.1	▲1.2	0.0
農家所得(専従者給与控除前)(B)	15.1	10.3	16.8	20.1	21.3	16.5	11.6	9.4
減価償却前(C)	29.6	20.8	21.5	25.0	25.9	23.3	21.8	13.5
(参考) 専従者給与	4.1	3.5	2.4	2.9	3.0	6.8	3.8	3.6
借入金残高(D)	64.6	36.0	92.4	93.6	66.1	44.5	89.6	37.2

図4 2015年の個人経営のコスト内訳(畜産部門)

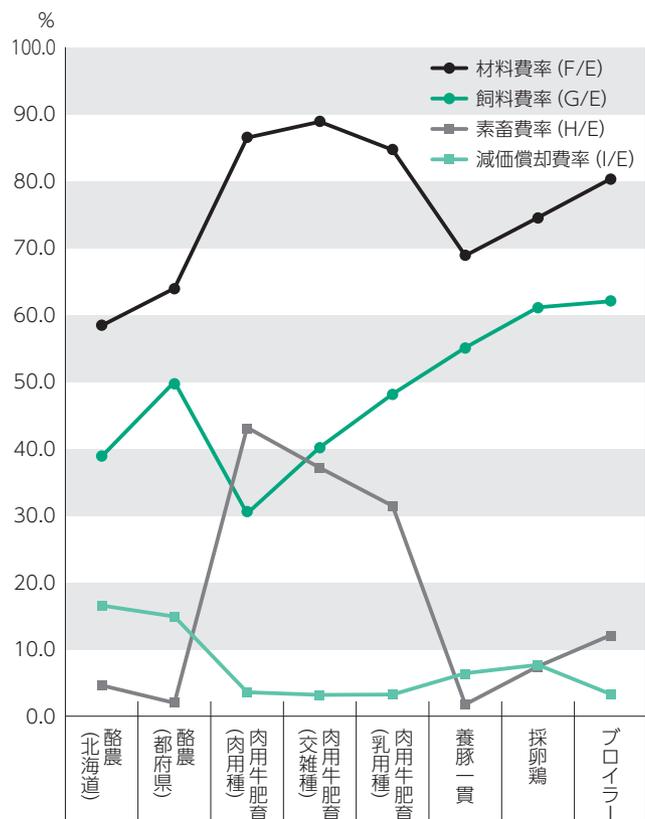


図3 2015年の個人経営の所得率など(畜産部門)

